

受賞者の概要

受賞者名	塚本 ^{つかもと} 徳昭 ^{のりあき}
住 所	鳥取県東伯郡北栄町大谷1371
経営面積	水 田 0.9ha (うち事業参加面積 0.0ha) 普通畑 3.4ha (うち事業参加面積 3.4ha)
主要作物	水稲：0.8ha、スイカ：2.0ha、芝：0.8ha、花き：0.9ha 等
事業名	国営かんがい排水事業
地区名	東伯地区 (昭和54年度～平成18年度、施設機能監視：平成19～20年度)

【取組の概要】

□ 畑かん用水を活用しハウススイカ＋花き栽培体系を確立

昭和48年に就農し昭和63年に父親から経営を継承。国営事業により平成5年に西高尾ダムからのかんがい用水が供用開始されたことを受け、用水を活用した経営転換を推進。基幹作物のスイカでは、ハウス栽培とすることで、トンネル内の作業等を軽減するとともに、トンネル栽培との定植時期の分散、早取りによる有利販売により労働環境の改善や収益性の向上を実現している。また、ハウススイカの後作には、この地域の気象条件を活かした品目として、平成5年からストック、平成12年からはアスターを導入。現在では30棟のハウスでスイカと花きを組み合わせた栽培を行っており、花きの産地化に先導的な役割を果たしている。

□ 畑地かんがい用水を活用した生産技術の導入

花き栽培では、年中を通して安定的にかん水できる条件を活かして、育苗後にはほ場へ苗を定植する慣行の方法ではなく、ほ場に直接種を播く直播栽培技術を先駆的に導入。規模拡大の制限要因となる定植作業を軽減し、個人経営でありながら0.9haという大規模での花き生産を実現している。また、ハウススイカの収穫後には、花きの播種までの期間を利用して、土壌伝染性の糸状菌による連作障害を防止するために、土壌還元消毒法による土壌消毒を実施。この方法は大量の水を必要とするものの高価な土壌消毒剤を使用しないことから、コスト低減にも、作業員や消費者の安心・安全にも寄与している。

□ 花き栽培における新たな取組

後継者の長男は、JA鳥取中央大栄支所花き部会の役員として生産組織の運営にも関わり、特にストックやアスターの栽培技術や販売方法の改善などで中心的な役割を担うなど、花き産地の牽引役として活躍。栽培技術では、鳥取県が進めているEOD-FR光照射（EOD遠赤色光照射）技術をいち早く導入し、花き栽培で技術の検証を行っている。また、販売方法では、花と花が擦れて傷むのを防止するために、切り花をフィルムで囲って箱に入れて出荷する方法を提案し、生産部会で採用されているほか、今年からはさらなる有利販売を目指して、アスターの縦箱出荷に向けた取組を進めている。



ハウススイカのほ場



直播き栽培（播種作業）



EOD電照による花き栽培